



SANKAKU LETTER

共に学び、共に働き、共に築く



May. 1
26
2018

- ・男女共同参画室室長ご挨拶
- ・平成三十年度男女共同参画委員会メンバーが決定しました
- ・平成三十年度男女共同参画室室員メンバーが決定しました
- ・内閣府が選ぶ、平成三十年度「男女共同参画週間 キャッチフレーズ」優秀作品に、本学男女共同参画室の応募作品が選ばれました
- ・前室長より退任のご挨拶

4/1 日付で男女共同参画室室長に就任しました

男女共同参画室 室長よりご挨拶

男女共同参画室 室長
工学部機械工学科 教授
白木 尚人



現在の日本は、自由と平等な社会を築き上げている一方で、差別や偏見に満ちたコミュニティも存在します。性別だけでなく、国籍、民族、文化、宗教などの違いをのり越えて理解を深め、多様な人材を活かすことは、有能な人材の発掘や斬新なアイデアを生み、組織の生産性を高めるだけでなく、社会の多様なニーズへの対応につながるはずです。

東京都市大学は1929年に創立した武蔵高等工科学校を源流の一つとし、現在は6つの学部が多様な背景や専門性を持つ多くの教職員と学生が集う総合大学へと進化を遂げました。近年の我々は、建学の精神「公正」、「自由」、「自治」のもと、各分野の実践的な専門性を身に着けるための教育を行い、グローバル時代に活躍する人材を育てることにより社会に貢献してきました。そのために「お互いの価値観を認め合い、学生と教職員が共に考え、学び、行動する」ことを理想としてきました。本学の目指す将来像には「多様性を認め合い、尊重しあう」姿勢は必要不可欠であると考えます。

本学では、2009年度に文部科学省科学技術振興調整費に採択されて「女性研究者支援室」を開設し、男女共同参画事業を進めて参りました。理工系の環境でも女性が働きやすく学びやすい環境を作るために、5つのプロジェクトを立ち上げ一定の成果を上げ、大学内の教職員の意識も徐々に変化してきたように思われます。

2018年度はグローバル人材の育成に資するため、2つの目標を掲げました。1つは「国際化への対応」です。様々な方々がこの大学で働き学んでいます。多様な人材が働くキャンパスの環境を整えることを進める上で、本学の目指す国際標準な大学の実現を目指します。2つめは「職場環境の改善」です。この大学で働く人達がHappyでないことには、ここで学ぶ学生の持つ夢はHappyなものにはならないでしょう。性別や国籍を問わず、この大学で働くことが幸せと思える様な環境づくりを目指します。その結果、学生がこの大学で学び続けたいや、卒業後再びここで学びたい・働きたいなど、この大学に帰って来たくなる様になるはずです。

「共に学び、共に働き、共に築く」スピリットを持った若者を社会に輩出すると共に、世界から見て優れた存在感のある大学にすることができると思います。男女共同参画室では、本事業の実施内容や検討事項などを随時、社会へ発信していきたいと思っております。

今後とも、男女共同参画室の活動にご支援を賜りたく、宜しく願い申し上げます。

TOPICS

男女共同参画室
平成30年度男女共同参画委員会
メンバーが決定しました

●委員会メンバー

	所属	氏名
委員長	副学長	皆川 勝
委員	工学部長	大上 浩
	環境学部長	大塚 善樹
	人間科学部長	井戸 ゆかり
	事務局長	上倉 信介
	学生部長	和多田 雅哉
幹事	男女共同参画室 室長	白木 尚人
出席者	企画・広報室 室長	鳥羽 幸太郎
	企画・広報室 部長	浦田 充起
	企画・広報室 課長	山本 卓

平成29年度まで委員、室員として協力をしていただき、
ありがとうございました！

◆委員◆

湯本 雅恵 先生 / 新保 良明 先生

中村 雅子 先生 / 川口 和英 先生

◆室員◆

塩月 雅士 先生 / 堀越 篤史 先生 / 杉本 裕代 先生

TOPICS

男女共同参画室
平成30年度男女共同参画室室員
メンバーが決定しました



室長 白木 尚人
工学部
機械工学科



伊東 明美
工学部
機械工学科



鈴木 憲史
工学部
電気電子工学科



小林 亮太
工学部
材料・化学科



張 英夏
知識工学部
情報科学科



伊東 保昌
知識工学部
経営システム工学科



丹羽 由佳理
環境学部
環境創生学科



横井 利彰
情報システム学科



坂井 文
都市生活学部
都市生活学科



原田 留美
人間科学部
児童学科



三幣 友行
共通教育部
外国語共通教育センター



鳥羽 幸太郎
企画・広報室



浦田 充起
企画・広報室



住田 暁弘
学生支援部



水谷 茂喜
総務部



山本 卓
企画・広報室



小松 義直
総務部 人事課

news

内閣府が選ぶ、平成30年度「男女共同参画週間キャッチフレーズ」優秀作品に、
本学男女共同参画室の応募作品が選ばれました。

内閣府が選ぶ、平成30年度「男女共同参画週間キャッチフレーズ」優秀作品に、応募総数3,050点の中から、
本学男女共同参画室の応募作品「男と女のチームプレーがファインプレー」が選ばれました。

内閣府では、6/23～29の男女共同参画週間にちなみ、「女性も男性も、自らの意思により個性と能力を発揮
して活躍できる職場を作るためのキャッチフレーズ」を毎年募集しています。

平成30年度募集テーマ：スポーツに関わるあらゆる分野での女性の参画を推進し、様々なスポーツに男性も
女性も親しみ、チャレンジし、活躍できるようになるためのキャッチフレーズ

尚、最優秀作品には、「走り出せ、性別のハードルを越えて、今」が選ばれました。

平成29年度最優秀賞 受賞作品



前室長から退任のご挨拶

男女共同参画室前室長

工学部原子力研究所 准教授 岡田 往子

36年前の原子力研究所は女性教職員が半数近くおり、緑の下の力持ちとなつて、支えていました。その女性たちは、資格取得、大学院進学、公務員転職、寿退社など、それぞれの道を選び、優秀な女性が去っていきました。

女性の働きやすい環境が整っていただければと思う気持ちが男女共同参画活動に結びついたと思います。大きなきっかけは理工系男女共同参画学協会連絡会でした。この活動で知り合った多くの方々に支えられ振興調整費を取得し、今の活動につながっています。私の室長時代は思うような働きができませんでした。今、大きく動き始めた気がします。女性のみならず多様な才能を開花し、活躍できる大学になってほしいと思っております。

